

戦略目標の策定について ～欧州の制度との比較～

戦略目標等の策定プロセス(概要)

STEP1: 基礎研究を始めとした研究動向の俯瞰

国内動向の俯瞰

- 科研費に係る情報を含む我が国競争的資金による基礎研究の成果等を網羅的に参照できるデータベース(FMDB)を構築
- FMDBを用いたデータ分析により、研究活動の盛衰や新たな研究概念の登場、研究間の連携の進捗などの我が国における研究動向を把握

世界動向の俯瞰

- 科学技術・学術政策研究所が作成している研究動向の俯瞰図(サイエンスマップ)を活用
- サイエンスマップを活用しつつ、研究論文の共引用関係又は直接引用関係を分析し、世界における研究動向及びその中での我が国の参画状況等を把握

STEP2: 知の糾合による注目すべき研究動向の特定

- STEP1の結果を用い、最新の研究動向に関して知見を有する組織・研究者に対する意見聴取を実施。
- 意見聴取で得られた結果を踏まえて、注目すべき研究動向の一覧を取りまとめ、研究動向の注目度、発展可能性等の観点から検討し、注目すべき研究動向を特定

STEP3: 科学的な価値と社会経済的な価値の創造が両立可能な戦略目標等の決定

- STEP2の結果を踏まえて、注目すべき先端的な研究動向に関する研究者と産業界などの識者との対話から、注目すべき研究動向に関する研究の進展等による社会・経済の展望等を検討するワークショップ等を開催
- ワークショップ等の結果を踏まえ、戦略目標(案)等を作成した上で、注目した研究動向に関する研究が進展した場合に創出されうる科学的知見の革新性や社会・経済に与える影響の大きさ、広さ等の観点から検討を行い、研究者による根本原理の追求と社会経済的な価値の創造が両立可能な戦略目標等を決定

【詳細】平成31年度戦略目標等の策定プロセス②

STEP3: 科学的な価値と社会経済的な価値の創造が両立可能な戦略目標等の決定

1. ワークショップ開催等による戦略目標等（案）の作成

特定された注目すべき研究動向に関し、研究者と産業界等との対話を行うワークショップ等を開催。注目すべき研究動向に関する研究の進展等により、社会・経済に与える影響等を推量し、戦略目標等（案）を作成



2. 外部有識者から戦略目標等（案）に対する意見を聴取

戦略目標等（案）について、目利き能力を有する外部有識者20名以上にヒアリングを実施するとともに、JST研究主監会議からも意見を受領。それらの意見を戦略目標等（案）の評価所見に反映

3. 検討ワーキンググループ（検討WG）による戦略目標等（案）の審議

戦略目標等（案）について、省内外の実務者級を集めた検討WGでヒアリングを行った上で、各戦略目標等（案）に対する所見を整理。

4. 検討会開催における戦略目標等（案）の優先順位付け

外部有識者からの意見や検討WGでの議論をもとに、最終的な優先順位付けを決定。



戦略目標等を決定

検討会における議論を踏まえ、研究振興局長が決定し、
科学技術振興機構（JST）・日本医療研究開発機構（AMED）に通知